

コンピュータリテラシB		教 授 植松 盛夫 非常勤講師 黒瀬 雅詞	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21200102

1. 授業のねらい・概要

コンピュータリテラシAに引き続き、コンピュータを道具として使い、コンピュータで思考を広げ、問題解決に利用できるようになることがねらいである。表計算ソフトの代表的なソフト「Excel」を用いて、ワークシートの活用、グラフ作成、データベース機能を利用したデータの検索や集計について学ぶ。

2. 授業の進め方

コンピュータ教室での実習を中心に行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. ワークシートの活用（条件付き書式）
2. Excel の基礎（起動と終了・データの入力）	10. グラフ（棒グラフ・積み上げ棒グラフ）
3. Excel 入門（合計の計算・ファイルの保存と呼び出し）	11. グラフ（折れ線グラフ）
4. Excel 入門（グラフの作成と印刷）	12. グラフ（円グラフ）
5. ワークシートの活用（行と列の編集・平均の計算）	13. グラフ（3Dグラフ・複合グラフ）
6. ワークシートの活用（計算式の複写と相対参照）	14. グラフ（ドーナツ・レーダーチャート）
7. ワークシートの活用（絶対参照・最大・最小）	15. グラフ（XYグラフ・絵グラフ）
8. ワークシートの活用（四捨五入・条件判定）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

集計表の作成と関数の利用についてテキストの練習問題を予習（30分程度）しておくこと。
授業で指示された課題を作成しメール等にて提出すること。これには60分程度の時間がかかる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、模範解答を提示する。

6. 授業における学修の到達目標

集計表と併せて分析のためのグラフ作成が行え、関数の使い方が適正に行えることを目的とする。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（50%）、課題・レポートの内容（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）により評価する。なお授業中に指定された課題以外の実習課題も仕上げて提出した学生は加点対象とする。

8. テキスト・参考文献

テキスト：『30 時間でマスターExcel2016（Windows10 対応）』、実教出版、2016 年

9. 受講上の留意事項

コンピュータリテラシ能力を向上させるために、コンピュータに触れ学ぶ機会を積極的に多くもつ必要がある。高等学校の教科「情報」の教育によりコンピュータリテラシの基礎を学んだ学生は、授業中に指定された課題以外の実習課題についても積極的に取り組む姿勢が必要となる。